

事発番号:18-036

事業名: 平成30年度 京臨技病理検査講演会(第4回みやこ病理検査講演会)

日時: 平成30年12月16日(日)13:00~17:00

場所: 京都府立医科大学 基礎医学学舎1階 第1講義室

主題1 H30年度診療報酬改定における総論と各論(第13部)

講師1: 恩田 和人 (サクラファインテック・ジャパン株式会社 営業本部 営業推進部)

主題2 包埋カセット印字装置を用いた当センターの切り出しについて

講師2: 大上 哲也 (国立病院機構京都医療センター 臨床検査科)

主題3 薄切時における現象と対策

講師3: 山本 竜一 (大和光機工業株式会社 営業部)

主題4 がん遺伝子変異検査における検体取扱いと品質管理について

講師4: 山口 直則 (綾部市立病院 臨床検査科)

参加数: 総数62人 (京臨技会員:25人)

報告者: 久保 喜則 (京都第一赤十字病院)

以下、講演内容など

今年診療報酬の改定が行われましたが、今の日本の現状を考察し、これまでの医療費抑制の取り組みや、改訂によるこれからのポイントを解説していただき、病理分野に係わる部分を整理し理解を深める事ができました。また病理遺伝子検査では超早期発見としてますます発展してきているが、治療薬の開発が追い付いていない現状や、AIによる診断が取りざたされており、病理検査技師はデジタル病理画像に適した作成技術が必要になってくるであろうと講演をいただきました。包埋カセット印字装置を用いた切り出しについての講演では、導入に至った経緯と、実際の運用法、メリットとデメリット、インシデントケースを紹介していただきました。医療安全上の観点から参加者から積極的に質問が上がり、討論が盛んに行われました。薄切の講演では、薄切時における現象を理論的に解説していただき、その現象の対策を動画を交え具体的に説明していただきました。会場からは参加者が日頃抱えている疑問や問題など様々な質問があり、対処方法を丁寧に回答していただき理解する事ができました。遺伝子変異検査の講演では、がんゲノム医療における検体を取り扱う上での注意点や、高品質な検査材料を得るためにすべき事の重要性を、ゲノム診療用病理組織検体取扱い規定に則して実践データを元に詳しく説明していただきました。本講演会は日臨技推進事業ならびに認定病理検査技師更新指定研修会を兼ねて開催しました。近年、全国から参加者があり、京都らしさをアピールするねらいで、今回より事業名に「みやこ病理検査講演会」を付けました。多数の参加があり大変有意義な講演会となりました。参加して頂いた会員に感謝致します。